

四谷の

千枚田だより



第 98 号



台風十五号

九月二十一日、浜松に上陸した台風十五号は豪雨による爪痕を各地にもたらした。当地では昭和四十九年七月七日の七夕豪雨は降り出から三日間で七百六十ミリの雨量を記録(舜)。千枚田の段々田んぼは宛ら滝のごとくで、語弊を招くが見事なものでもあり、当地でも大きな被害を被った。今回は時間的雨量がそれに次ぐ豪雨で台風通過時に風と集中豪雨で全部の田んぼが満水になりハザもバタバタと倒れてしまった。(写真)また、十二号台風で崩落し、修繕したばかりの千枚田入り口と古宿の作業道が崩落。軽トラも通れない惨状で稲刈り、脱穀に忙しい農繁期に泣くにも泣けない状態である。二回の三連休に都市近郊から物見遊山に訪れた多くの人たち(推定七千人)はこの惨状を見て棚田を守る手間暇、厳しさをまざまざと見せ付けられ、慰めの言葉を多く頂いたが、被害を被った百姓はそれどころではない、転んだハザ起こしに夜星朝星の農作業に疲労困憊の田々を送った。



この災害に対して苦境を強いられる棚田の現状を行政も好意的に把握。台風十五号の災害の中で施設損壊として即座に対応、早期復旧の目処の回答が得られた。棚田百選、自然再生、都市近郊から訪れる人々に憩い、潤いを与え、人々に活力を見いだす原風景「棚田」と、その守りに早い災害復旧により、棚田の存続に大きな望みを得た。



景観環境整備に出役した保存会会員

景観環境整備 十月二日、保存会はふれあい広場、千枚田入り口付近の草刈りを行った。例年はすでに脱穀の時期であるが、本年は生長期の長雨や台風の影響で刈入れが大幅に遅れ、今日も稲刈りが行われている。そのさなかに二十三名の会員が草刈り作業に出役した。ご苦労様でした。

新城高校農業クラブの稲刈り

同校の自称エリート達は原田英史(保存会理事)の指導で田植え、田の草取り、そして九月十八日、稲刈りはざ架けを行った。



豊橋調理製菓専門学校での脱穀

九月二十五日、同校六十名の学生ははざ架け天日干しされた「鈴原糯」の脱穀後。収穫感謝祭を行った。指導にあたった小山舜二は「同校が千枚田での食育実習は五年になる。四谷の千枚田は全部の田んぼが湧き水、天日干しでこれ以上贅沢なお米は他にない。それと最近は、生きものと共生した体にやさしい米作りを目指している。将来、食のプロになる皆さんは食の原点である米つ

くりをこの棚田で実践。米一粒一粒の大切さを自らが学んだことと思う。将来、独立して店を出したら招待してください。」と締めくくった。



連谷小学校

九月二十八日に稲刈りを終え、田んぼを守っていた案山子も学校の運動場で天日干しされていた稲の見張りをしていたが十月十二日に脱穀が行われた。

あいち森と緑づくり事業

十一月十三日、連谷お助け隊・保存会・地区住民が一丸となり「あいち森と緑づくり事業」を活用した環境整備が与良木地内を中心に行われる。当日は、連谷お助け隊主導で行われるが、住環境、地域活性化活動として大勢の参加をお願いします。

サミット参加

鞍掛山麓千枚田保存会十六名は十月二十八日、二十九日、徳島県上勝町で開催される第十七回全国棚田(千枚田)サミットに出席。全国から参加する棚田の百姓と忌憚のな意見交換、情報収集などを積極的に行い棚田の継承、活性に役立てようという意気込んでいた。

善意二題

①海老の古田利夫さんは、自らの好意で「ふれあい広場」上面の草刈りをして頂きました。助かりました。
②岡崎在住の方から市鳳来総合支所を通し、匿名で「幸運にも、保存会の小山様と思われる方にお会いできました。自然の恵みと地区の皆



季節の風物詩 はざ架け

様の努力で見事に維持されている景色、お話に感激致しました。倒れた稲は無事に収穫できたでしょうか。これから天候に恵まれ、棚田にたくさんのハザが並びますように祈っています。失礼かと思いましたが、些少ですがどうぞ「千枚田だよ」プリント代に使ってください。自然の息吹きを感じ、元氣と優しさをいただいた景色とお話のお礼まで。お志、ありがたく頂戴し、保存会運営資金に活用させていただきます。ありがとうございます。

行 平成二十三年十月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二